

NCNPプレスリリース (<https://www.ncnp.go.jp/topics/>)

- “動きの量”だけでは見えない多動性 ―自閉スペクトラム症マーマセッで多動の不規則性とストレス指標との関連を確認―
NCNP・名古屋大学・大阪大学(共同) 神経研究所 微細構造研究部 部長 一戸 紀孝 部長、リサーチフェロー 中村 月香 (2/6 リリース)
- なぜヒトの手はこんなに器用?古い神経回路と新しい神経回路が役割分担して柔軟さと安定性を両立させていることを発見
NCNP・玉川大学(共同) 神経研究所 モデル動物開発研究部 部長 関 和彦 (2/12 リリース)
- 個人の行動と脳活動を再現!「デジタルツイン脳」を開発 ―精神疾患の個別治療シミュレーションの実現―
NCNP・東北大学(共同) 神経研究所 疾病研究第七部 室長 高橋 雄太、リサーチフェロー 宗田 卓史、室長 山下 祐一 (2/13 リリース)
- 脊髄小脳変性症の新しい発症メカニズムを特定 ―原因遺伝子「SNUPN」の発見―
NCNP 神経研究所 疾病研究第一部 室長 野口 悟、研究員 大久保 真理子、部長 西野 一三、
疾病研究第六部 室長 井上 高良、病態生化学研究部 部長 星野 幹雄 (2/19 リリース)
- いじめを受けた経験が、思春期の心の不調につながるメカニズムの一端を解明 ―「終末糖化産物(AGEs)」が関与している可能性―
NCNP・東京医科学総合研究所・東京都保健医療局(共同) 精神保健研究所 行動医学研究部 室長 成田 瑞 (3/4 リリース)
- 重症精神障害をもつ人の不安感を改善 訪問支援型チームによる認知行動療法がコストを増やさずに効果があることを実証
― 地域での心理療法が実装可能と示した初のクラスター-RCT研究 ―
NCNP 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 室長 佐藤 さやか (3/13 リリース)
- 「巧みな手の動き」の主役は脊髄だった ― 随意運動制御における脊髄反射回路の役割を、神経細胞の働きとして実証 ―
NCNP・生理学研究所・山梨大学・京都大学・玉川学園・電気通信大学(共同)
神経研究所 モデル動物開発研究部 部長 関 和彦、研究員 金 祉希(当時) (3/26 リリース)
- 眼咽頭遠位型ミオパチーの新たな病態を解明 ―リポーター長とDNAメチル化が症状を左右―
NCNP・奈良県立医科大学(共同) 神経研究所 疾病研究第一部 室長 野口 悟、部長 西野 一三 (3/27 リリース)
- 国立精神・神経医療研究センター病院 4月1日「児童精神診療部」を開設 ～こどものこころに寄り添うための診断と治療を提供～
NCNP (3/27 リリース)
- 音声データから読み解く家族のコミュニケーション ― 霊長類ASDモデルで発見された変化 ―
NCNP 神経研究所 微細構造研究部 部長 一戸 紀孝、疾病研究第三部 室長 三村 喬生 (4/2 リリース)
- 難病「ペリソフェウス・メルツバハ病」の原因に新説 ― “細胞内カルシウム不足”が細胞内物流を停止、治療の標的に ―
NCNP メディカルゲノムセンター 室長 井上 健 (4/7 リリース)
- 日本における自己免疫性小脳失調症の全国実態調査を実施 ～早期治療が症状改善につながる可能性を示唆～
NCNP・北海道大学・岐阜大学 NCNP病院 特命副院長 高橋 祐二、理事長特任補佐 水澤 英洋 (4/14 リリース)
- 「脳の修復」の鍵はミエリンの“まきつぎ”にあり ―まきつぎの評価法開発と薬剤の特定―
NCNP・早稲田大学 神経研究所 神経薬理研究部 部長 村松 里衣子 (4/17 リリース)
- 「エタノールアミン」が示すうつ病のメカニズムと診断・治療の可能性 ― 新規バイオマーカーや新しい治療法開発への道 ―
NCNP 精神保健研究所 行動医学研究部 室長 小川 真太郎、部長 堀 弘明、
メディカル・ゲノムセンターバイオリソース部 部長 服部 功太郎 (5/11 リリース)
- 細胞の小さな「アンテナ」が、脳領域の形成を制御することを発見-ヒト脳オルガノイドで一次繊毛シグナルの働きを解明-
NCNP・名古屋市立大学・名古屋大学 神経研究所 病態生化学研究部 研究員 伊藤 雅之 (5/29 リリース)
- 国立精神・神経医療研究センター病院「睡眠診療部」を開設～すべての国民にGood Sleepを届けるために～
NCNP (6/1 リリース)

ご存じですか? NCNP 及び NCNP 病院 公式アカウント

https://twitter.com/NCNP_PRぜひ、フォロー・チャンネル登録を
お願いします!!<https://www.youtube.com/user/NCNPchannel>https://www.instagram.com/ncnp_pr/ NCNP公式https://www.instagram.com/ncnp_hospital/ 院長室

NCNP公式



院長室

NCNP 診療ニュース

児童精神診療部と睡眠診療部を
開設しました2026.6
Vol.48

診療科紹介

児童精神
診療部

診療科紹介

睡眠診療部

病院紹介

脳ドック

診療科紹介

司法精神
診療部

病院紹介

リワーク
センター

国立研究開発法人

国立精神・神経医療研究センター

National Center of Neurology and Psychiatry

NCNP診療ニュース Vol.48 2026年6月発行

国立精神・神経医療研究センター病院

〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1

Tel.042-341-2711(代表) <https://www.ncnp.go.jp/>

NCNP
病院
診療科紹介

児童精神診療部



-素直に頼れる「安全基地」として-

児童精神診療部／児童精神科は、子どもとご家族が安心して相談でき、困ったときに素直に頼ることのできる「安全基地」でありたいと考えています。子どものこころの問題は、発達の過程や家庭環境、学校生活、対人関係などさまざまな要因が複雑に関係して生じるため、一人ひとりの状況や背景を丁寧に理解しながら支援を行うことが重要です。当科では、子ども本人の抱える困難だけでなく、ご家族の不安や悩みにも寄り添いながら、子どもの健やかな成長と発達を支えることを目指しています。

診療対象は、自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症(ADHD)などの神経発達症をはじめ、統合失調症、気分障害(双極症・うつ病)、不安症、強迫症、睡眠障害など、児童精神科領域における幅広い疾患・障害です。精神診療部、司法精神診療部および脳神経小児科診療部と密接に連携し、医学的・心理学的・発達の観点から総合的な評価を行うことで、個々の特性やニーズに応じた診療と支援を提供します。また、症状の改善だけでなく、学校生活や家庭生活、社会参加を見据えた長期的な支援にも取り組んでいます。

当科では、多職種によるチーム医療を重視しています。医師、公認心理師、看護師をはじめとする専門職が連携し、それぞれの専門性を生かしながら診療を行います。必要に応じて教育機関や地域の支援機関とも協力し、医療・福祉・教育が一体となった支援体制の構築を目指しています。地域の医療機関との連携も積極的に進め、高度専門医療を担う立場として、診断や治療が難しい症例への対応や専門的なコンサルテーションにも取り組みます。

また、精神保健研究所や認知行動療法センターなどの関連部門と連携し、児童精神科医療の発展に向けた研究活動を推進しています。神経発達症や精神疾患の病態解明、新しい診断法や治療法の開発、心理社会的支援の有効性の検証などを通じて、科学的根拠に基づく質の高い医療の実現を目指しています。研究で得られた知見を診療現場へ還元することで、より効果的で先進的な医療の提供に努めています。

さらに、次世代の児童精神医療を担う人材の育成も当科の重

児童精神診療部 部長
認知行動療法センター 認知行動療法診療部 部長(兼任)
佐々木 剛

要な使命です。医師、心理職、看護師をはじめとするメディカルスタッフを対象に、専門的知識と実践的能力を身につけるための教育プログラムを提供しています。多職種協働によるチーム医療や研究活動を通じて、子どもと家族を包括的に支援できる専門家の養成に取り組んでいます。

当科では、子どもの「知的発達」「認知特性」「発達の偏り」「情緒面」などを客観的に把握し、適切な診断や支援方針の検討につなげるため、臨床心理部、精神保健研究所、認知行動療法センター等と連携して心理発達検査を実施しています。検査結果は診断の補助にとどまらず、子どもの強みや得意なこと、支援を必要とする領域を理解し、家庭や学校での具体的な支援方法を検討するための重要な情報となります。

また、児童期から思春期、さらに成人期へと移行する過程において、継続的な医療と支援が必要となる場合も少なくありません。当科では、将来の自立や社会参加を見据えながら、成人精神科医療との円滑な連携を図るトランジション支援にも取り組んでいます。子どもたち一人ひとりが自分らしく成長し、地域社会の中で安心して生活できるよう、診療・研究・教育の三つの柱を基盤として、質の高い児童精神科医療の提供に努めてまいります。

NCNP
病院
診療科紹介

睡眠診療部



「睡眠診療部」を開設します

病院長 戸田 達史

令和8年6月1日、当院は新たに「睡眠診療部」を立ち上げ、「睡眠障害内科」「睡眠障害精神科」「睡眠障害小児科」を標榜いたします。

厚生労働省は医療法施行令を18年ぶりに改正し、組み合わせで標榜可能な診療科名として「睡眠障害」を追加することを決定しました。これまで専門疾病センター(睡眠障害センター)として、病院内の様々な診療科医師や研究所医師と協力して睡眠専門外来を運営してまいりましたが、このたび当院も「睡眠障害精神科」「睡眠障害内科」「睡眠障害小児科」を標榜するにあたり、新たに独立した「睡眠診療部」を開設し、より多くの患者さんに受診していただける体制を整えることとなりました。地域の先生方とのさらなる連携のもと、不眠症から睡眠時無呼吸、小児の睡眠問題まで、様々な睡眠・覚醒障害に対し専門医療を提供します。

●睡眠・覚醒障害を包括的に診療

日本人の約5人に1人が睡眠の悩みを抱えるといわれ、不眠症、睡眠時無呼吸症候群、過眠症(ナルコレプシー等)、概日リズム睡眠・覚醒障害、レム睡眠行動障害、むずむず脚症候群、小児期に特有の睡眠の問題など、その内容は多岐にわたります。当診療部では睡眠医学を専門とする医師が中心となり、症例に応じて精神科・内科・小児科・歯科の医師や心理士等と協働し、年齢や病態に応じた最適な医療を提供します。

●精神・神経疾患に併存する睡眠障害

睡眠・覚醒障害は、精神疾患や神経疾患に多く併存し、しばしば診断や治療が難しくなることが知られています。国立精神・神経医療研究センター病院はこのような症例の経験が豊富であり、精神科や脳神経内科、小児科の医師と連携し適切な医療を提供することができます。治療が難しい症例に対しても最善を尽くします。

●充実した検査体制

終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)、反復睡眠潜時検査(MSLT)、アクチグラフを用いた睡眠習慣の確認など、睡眠医療において重要な各種検査を実施しています。日本睡眠学会専門検査技師に

よる安全精度管理のもと、詳細な評価が可能です。

●研究・治験と連動した先進的な医療

世界有数の睡眠研究機関である精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部との連携体制をさらに強め、最新のエビデンスに基づく診療と新規治療法の開発を両輪で推進しています。新薬・医療機器治験の実施拠点としても国内外の研究を牽引してまいります。診断や治療に難渋する睡眠・覚醒障害の患者さんであっても、ぜひ当診療部にご紹介・ご相談ください。

対象疾患・症例

- 不眠症(治療抵抗性・薬剤調整に難渋する例を含む)
 - 睡眠時無呼吸症候群(診断・CPAP導入および管理)
 - ナルコレプシーをはじめとする中枢性過眠症(小児症例含む)
 - 概日リズム睡眠・覚醒障害(睡眠・覚醒リズムの乱れ)
 - レム睡眠行動障害など、夜間の異常行動を伴う睡眠時随伴症
 - むずむず脚症候群・周期性四肢運動障害
 - 小児・思春期に特有の睡眠の問題
 - うつ病・不安症などの精神疾患に併存する睡眠障害
 - パーキンソン病などの神経疾患に併存する睡眠障害
- ※その他様々な睡眠・覚醒障害を診療しています



睡眠診療部の組織体制



日本睡眠学会専門検査技師による解析

脳ドック



脳の健康を守るために — 脳ドックのすすめ

当院では2021年6月より脳ドックを開設しました。週1回(水曜日午前)に頭部MRI+MRA、採血、心電図、頸動脈エコーを内容としており、当日に検査結果を説明しています。

脳ドックは、脳血管障害や認知症関連疾患を無症候段階で検出し、一次予防・二次予防につなげることを目的とした画像診断中心の健診システムです。高齢化の進行に伴い、脳血管障害および認知症は医療・介護負担の主要因となっており、脳ドックの役割は単なる画像スクリーニングにとどまらず、将来的な脳の健康管理の入口として重要性を増しています。

脳ドックの最大の利点は、無症候性脳血管病変の検出にあります。MRIによりラクナ梗塞、白質病変、微小出血、脳萎縮などを高感度に評価でき、MRAによって頭蓋内主幹動脈狭窄や未破裂脳動脈瘤のスクリーニングが可能です。特に無症候性脳梗塞や高度白質病変は、将来の脳血管障害発症のみならず、血管性認知症、歩行障害、抑うつ、フレイルとも関連することが知られており、生活習慣病管理強化の動機づけとなる意義は大きいと言えます。未破裂脳動脈瘤の検出は脳ドックの重要な役割です。日本人ではくも膜下出血の頻度が比較的高く、家族歴、高血圧症、喫煙などのリスク因子を有する症例では、MRAによる非侵襲的評価の有用性が高いです。小型動脈瘤の自然歴や過剰介入の問題は存在しますが、部位・形態・増大傾向を踏まえたリスク層別化を行うことで、破裂予防戦略に寄与します。



総合内科部 木村 浩晃

また、近年は認知症予防の観点からの脳ドック需要も増加しています。MRIによる海馬萎縮評価、側頭葉内側萎縮、脳血管病変の評価は、アルツハイマー病 や血管性認知症リスクの推定に有用です。特に血管性因子は修正可能リスクであり、高血圧症、糖尿病、脂質異常症などへの早期介入につながる点は臨床的価値が高いです。さらに近年はアミロイドPETや血液バイオマーカー研究の進展により、脳ドックが将来的にプレクリニカル認知症評価のプラットフォームとなる可能性もあります。

脳ドックは患者教育ツールとしても有効です。画像所見を提示することで患者さんの理解と行動変容を促しやすく、降圧治療、禁煙、減量、運動療法などへのアドヒアランス向上が期待できます。特に無症候性病変は「症状がないため治療意欲が低い」という一次予防医療の課題を補完する役割を果たします。

さらにMRIベースの検査であるため放射線被曝がなく、反復評価が比較的容易である点も利点です。高リスク症例では経年的なフォローアップによって白質病変進展や動脈瘤形態変化を評価でき、長期的管理に応用可能です。

一方、偶発所見への対応、過剰診断、検査適応の最適化など課題も存在します。しかし脳血管障害・認知症による社会的損失を考慮すれば、脳ドックは単なる健診ではなく、予防神経学の実践的手段として今後さらに重要性を増すと考えられます。

司法精神診療部



医療観察法医療の向上に取り組んでいます。 医療観察法医療の最大の特徴は 多職種チーム医療です。

司法精神診療部は、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法)における指定入院・通院医療機関として、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者(対象者)に対する治療を実施しています。

当院は指定入院医療機関として日本最大の医療観察法病床数を有しております。2026年6月の診療報酬改定により、医療観察法病棟は一般病棟と地域移行支援病棟の2種類に機能分化しましたが、当院は両種類の病棟を1つずつ有しております。医療観察法病棟では司法精神診療部の医師に加えて、看護師、公認心理師、作業療法士、精神保健福祉士などの専門職が協働し、手厚いチーム医療を実施しています。また当院は指定通院医療機関として、通院処遇にも力を入れており、対象者に対して入院医療と同様の手厚いチーム医療を提供しています。司法精神診療部は、関係省庁や全国の指定入



司法精神診療部 部長 竹田 康二

院医療機関と連携し、多くの医療観察法関連の研究・事業を実施しております。特に当院が幹事病院を務める重度精神疾患標準的治療法確立事業(医療観察法データベース事業)により構築された入院データベースは、医療観察法医療の発展に大きく寄与してまいりました。入院データベースを基に作成された「医療観察法統計資料 2020年版」など、当センターのHPでは全国の医療観察法医療に関する基礎統計資料を公開しています。

また、当院は日本司法精神医学会認定の精神鑑定医養成指定研修施設であり、精神鑑定(刑事責任能力鑑定、医療観察法鑑定など)を数多く実施しています。司法精神鑑定に対して質の高い中立・適正な医学的情報を提供することを目的に司法精神医学コンサルティング

も実施しています。

司法精神診療部はこれからも臨床・研究双方において日本の司法精神医学の発展と向上に努めてまいります。



司法精神診療部の業務

精神鑑定

当院は日本司法精神医学会認定の精神鑑定医養成指定研修施設です。刑事責任能力鑑定などを実施しています。精神鑑定に対して適正な医学的情報を提供することを目的に司法精神医学コンサルティングも実施しています。

医療観察法入院処遇

2病棟66床
(一般病棟33床・地域移行支援病棟33床)
当院は全国で最大の医療観察法病床数を有する指定入院医療機関です。一般病棟と地域移行支援病棟の2種類の病棟を有しています。患者さんごとに組まれる多職種チーム(医師・看護師・公認心理師・作業療法士・精神保健福祉士など)による手厚い医療が最大の特徴です。治療抵抗性統合失調症治療薬の積極的導入、多様な心理社会プログラムなども実施されています。

医療観察法通院処遇

当院は指定通院医療機関として、社会復帰調整官や地域支援者と連携しながら、入院医療と同様に多職種チームによる手厚い診療を実施しています。通院処遇終了後の患者さんにも希望があれば通院処遇中と同様の診療を実施しています。

重度精神疾患標準的治療法確立事業(通称:医療観察法データベース事業)

当院は医療観察法データベース事業の幹事病院として、全国の指定入院医療機関から匿名化されたデータの提供を受け、医療観察法データベースを構築しております。データの解析結果を厚生労働省や全国の指定入院医療機関にフィードバックし医療観察法医療の均てん化・般化に取り組むとともに、研究利活用事業や医療観察法統計資料の発行を通じて、研究の発展、社会への情報提供にも努めています。

病院紹介

リワークセンター



復職を支えるリワークデイケア



臨床心理部 臨床心理室
今村 扶美

当院のリワークデイケアでは、うつ病や適応障害等で休職中の患者さんを対象とした復職支援プログラムを運営しています。私たちは、患者さんのスムーズな復職はもちろんのこと、その先も無理なく、自分らしく働き続けられるような支援を心がけています。プログラムでは、患者さん同士が思いを共有し、支え合う体験を通して、自然と復帰への準備を整えていけるような雰囲気作りを行っており、復職した卒業生と体験を分かち合う機会なども設けています。

支援内容としては、認知行動療法、心理教育、グループワーク、作業訓練などに力を入れており、患者さんが自身の不調のパターンや再燃のサインへの理解を深め、復職後にも活かせる対処法を身につけ

られるようなプログラム構成となっています。また、精神科医、公認心理師、看護師、精神保健福祉士などの多職種がかかわり、院内の各種サービスとシームレスに連携できることも当院の強みの一つです。2016年度の開所以来、8割程度の患者さんが職場に復帰されています。今後も関係機関の皆さまと連携しながら、患者さん一人ひとりが無理なく働き続けられるよう支援を続けてまいります。プログラムのスケジュールやご案内については、右記のQRコードよりご確認ください。【リワークご案内】



NCNP病院公開講座等開催予定表

開催月日・曜日	公開講座	主催部門	参加予定人数	開催形式
6月20日(土)	第22回 NCNP 筋ジストロフィー 市民公開講座 筋疾患センター	筋疾患センター	対面100名、WEB400名	対面+ WEB 開催
7月12日(日)	てんかん診療コーディネーター研修会	総合てんかんセンター	250~300名	WEB 開催
8月2日(日)	てんかん市民公開講座	総合てんかんセンター	100~120名	WEB 開催
9月12日(土)	RST 医療従事者向けセミナー	呼吸サポートチーム	20~30名	対面
9月19日(土)	PD および PD 関連疾患について	パーキンソン病・運動障害疾患 (PMD) センター	対面20名、WEB 60名	対面+ WEB 開催
9月中予定	MS/NMO 講演会	多発性硬化症 (MS) センター	100名	WEB 開催
10月3日(土)	認知症市民公開講座	認知症センター / 認知症疾患医療センター	120名	対面+ WEB 開催
11月7日(土)	パーキンソン病 / パーキンソン症候群の嚥下と栄養	嚥下障害リサーチセンター	50名	WEB 開催
12月5日(土)	気分障害センター市民公開講座	気分障害センター	400名	WEB 開催
12月12日(土)	専門看護室ケアセミナー	看護部専門看護室	100~200名	WEB 開催
12月20日(日)	てんかん診療コーディネーター研修会	総合てんかんセンター	250~300名	WEB 開催
12月中予定	ME/CFS 講演会	多発性硬化症 (MS) センター	100名	WEB 開催
2027年 1月17日(日)	てんかん市民公開講座	総合てんかんセンター	100~120名	WEB 開催
2027年 2月20日(土)	睡眠障害センター市民公開講座	睡眠障害センター		WEB 開催
2027年 1~2月予定	脳神経小児科市民公開講座	脳神経小児科	50~100名	WEB 開催
2027年 3月2日(月) 予定	プリオン病について知ろう	総合内科部		録画による WEB 配信

Nature



NCNP四季便り

トランスレーショナル・メディカルセンター
永井 秀明

びわの実

初夏、センターの琵琶の実が色づきます。
冬、12月から1月にかけて咲く小さな白い花が、甘い香りでミツバチやハナアブを誘って受粉していたのです。
花の少ない冬、虫たちには貴重な蜜、琵琶は競争を避けて効率よく受粉できる、ウィンウィンの関係です。
なかなか収穫するのはむづかしいかもしれませんが、センターの琵琶はとっても甘くておいしいので、機会があれば味わってみてください。

